

# 平成17年度のごみ処理状況について（速報）

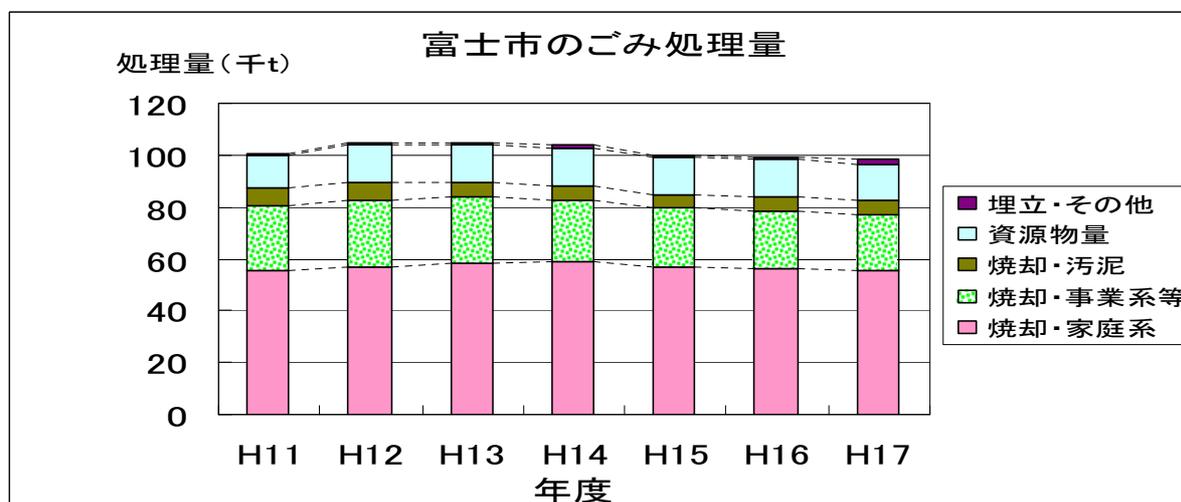
～総量・焼却量ともに減量化が進む～

…… フジスマートプラン21の目標値について、①1人1日当たり排出量、②1人1日当たり焼却量、③資源化率すべてにおいて目標値を達成できなかった。……

## 1) ごみ処理総量等

富士市のごみ処理量（単位:t）

項目		年度						
		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
ごみ処理総量	量(t)	100,550	104,740	104,892	103,794	100,070	99,523	98,798
	増減率(%)	2.4%	4.2%	0.1%	-1.0%	-3.6%	-0.5%	-0.7%
焼却量	量(t)	87,064	89,281	89,676	87,951	84,557	84,161	82,483
	増減率(%)	1.5%	2.5%	0.4%	-1.9%	-3.9%	-0.5%	-2.0%
家庭系	量(t)	55,595	57,131	58,019	58,724	57,047	55,934	55,232
	増減率(%)	1.9%	2.8%	1.6%	1.2%	-2.9%	-2.0%	-1.3%
事業系・その他	量(t)	24,999	25,693	26,034	23,600	22,386	22,520	21,489
	増減率(%)	1.7%	2.8%	1.3%	-9.3%	-5.1%	0.6%	-4.6%
汚泥	量(t)	6,470	6,457	5,623	5,627	5,124	5,707	5,762
	増減率(%)	10.9%	-0.2%	-12.9%	0.1%	-8.9%	11.4%	1.0%
資源物量	量(t)	13,008	14,856	14,403	14,803	14,365	14,100	13,922
	増減率(%)	7.5%	14.2%	-3.0%	2.8%	-3.0%	-1.8%	-1.3%
埋立・その他	量(t)	478	603	813	1,040	1,148	1,262	2,393
	増減率(%)	46.6%	26.2%	34.8%	27.9%	10.4%	9.9%	89.6%



### ①ごみ総量は98,798tで、対前年比で0.7%減少

○4年連続減少となったが、減少率は0.7%にとどまった。

○総量の△725tの内訳は、埋立その他で1,131t増加したが、焼却量で1,678t、資源物で178tそれぞれ減少した。

○埋立その他が大きく増加しているのは、埋立ごみをこれまで環境保全公社で破碎した後、そのうち可燃分を環境クリーンセンターに戻して焼却していたものを17年度よりすべて公社で処理するようになったことによる。

【参考】埋立ごみ2,393tの内訳は、環境保全公社での焼却処分912t、埋立処分1,481t。

②環境クリーンセンターでの焼却量は、82,483 t で対前年比で2.0%の減少

○4年連続減少となっている。家庭系ごみが702 t、事業系・その他が1,031 t 減少しているが、汚泥は55 t 増加。焼却量全体の減少率は2.0%となった。

○9万 t の処理能力に対して、91.6%の稼働率

③一般家庭からの収集可燃ごみは、55,232 t で、対前年比で1.3%の減少

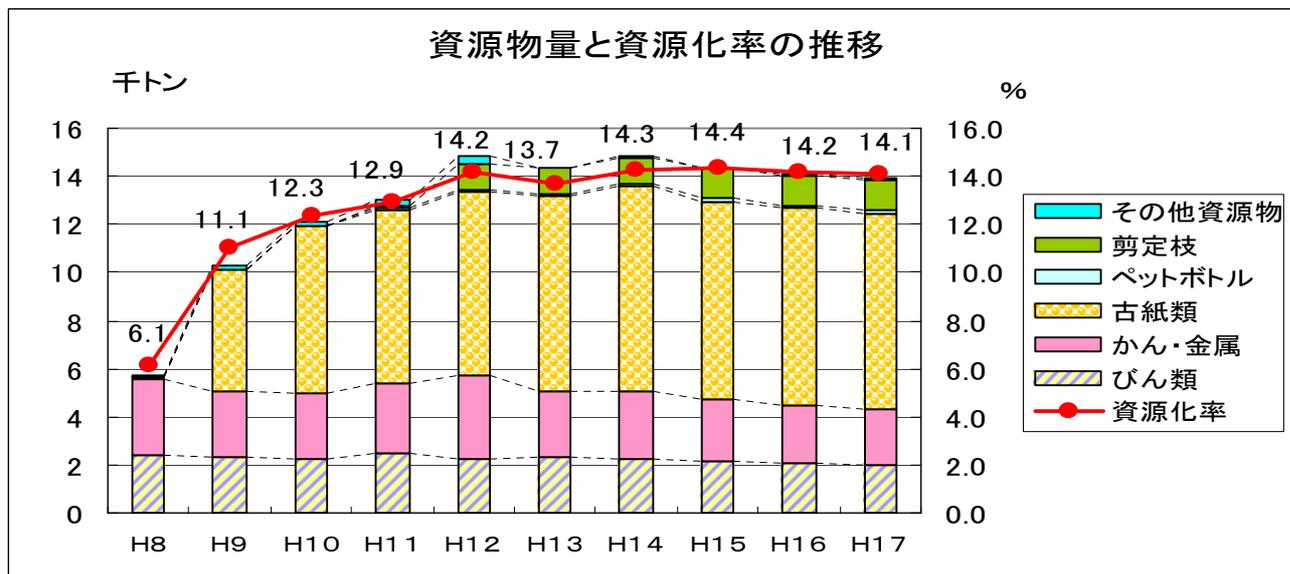
○一般家庭からの収集可燃ごみ3年連続で減少した。

◇ごみの出前講座やごみ減量キャンペーン等の地道な教育啓発活動の成果により、家庭系収集量は減少している。また、事業系焼却量も減少傾向にあり、資源化が進んでいることが推測される。

2) 資源化物量

富士市の資源化物量 (t) と資源化率 (%)

年度 項目	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
資源物総量	12,103	13,008	14,856	14,403	14,803	14,365	14,100	13,922
びん類	2,241	2,456	2,254	2,334	2,271	2,134	2,043	2,025
缶・金属	2,765	2,911	3,448	2,758	2,753	2,606	2,453	2,320
古紙類	6,900	7,238	7,614	8,108	8,556	8,212	8,148	8,099
剪定枝		141	1,085	1,007	1,066	1,241	1,209	1,225
ペットボトル		57	96	105	106	118	133	147
ウエス		13	12	1	6	13	9	7
その他	197	192	347	90	45	41	105	99
資源化率	12.3%	12.9%	14.2%	13.7%	14.3%	14.4%	14.2%	14.1%



①資源化物量総量は13,922 t で、対前年比で178 t (1.3%) 減少した。

②ごみ総量の減少率以上に資源化物量が減少したので、資源化率は14.1%と0.1ポイント下降した。

③びん、かん・金属、古紙の主用品目で全資源化量の約9割を占めているが、対前年比でそれぞれ△0.9%、△5.4%、△0.6%減少している。

④ペットボトル・剪定枝・ウエス等の比較的近年に取り組み出した品目についてはペットボトルと剪定枝が増加しているが、ウエスは減少している。

○ペットボトル 147 t (+14 t、+10.5%)

○剪定枝 1,225 t (+16 t、+1.3%)

○ウエス 7 t (-2 t、-22.2%)

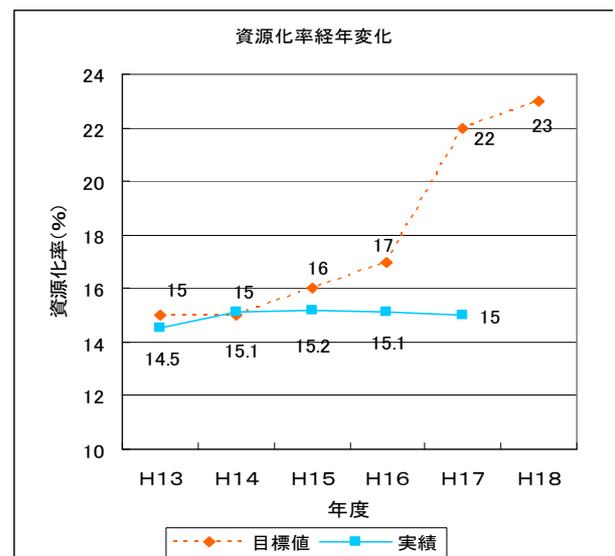
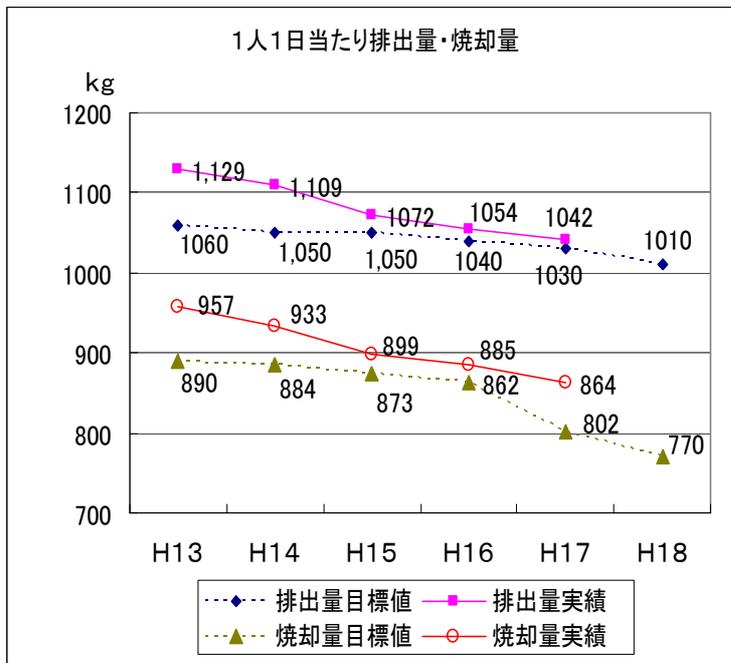
- ◇ びん・かんの減少は、ペットボトル・紙パック等の代替容器類への切替が進んでいるためと推測される。
- ◇ 古紙類の減少は、3年連続であるが、これは古紙相場が安定的に高値であったため、PTA・子ども会などの集団回収へ流れた量が増えたことと、雑誌類そのものの流通量の減少などが推測される。
- ◇ ペットボトルの増加は、拠点回収に加え、モデル地区でのステーション回収試行を実施したことによる。
- ◇ ウェスについては、回収量に変化は無いものの、返品・焼却されるものの量が増加していることからリサイクル量が減少している。

### 3) フジスマートプラン2 1 目標値との対比

※目標値との対比においては、し尿汚泥・下水道汚泥・罹災物量は除く。

年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
1人1日当たり排出量(目標値)	1,082	1,090	1,060	1,050	1,050	1,040	1,030
1人1日当たり排出量(実績値)	1,082	1,125	1,129	1,109	1,072	1,054	1,042
1人1日当たり焼却量(目標値)	928	931	890	884	873	862	802
1人1日当たり焼却量(実績値)	928	950	957	933	899	885	864
資源化率(目標値)	14.0%	15.0%	15.0%	15.0%	16.0%	17.0%	22.0%
資源化率(実績値)	13.8%	15.1%	14.5%	15.1%	15.2%	15.1%	15.0%

算定に使用する人口については、上位計画との整合性を図るため、平成17年度より年度末のものとする。



①1人1日当たりの排出量は1,042gであり、対前年対比で12g(1.1%)の減少である。目標値1,030gに対して12g超過しているが、前年度に比べ超過量は減少している

◇目標値に対する割合…… 101.2%

②1人1日当たりの焼却量は864gであり、対前年対比で21g(2.4%)の減少であるが、目標値802gに対して、62g超過しており、前年度に比べ超過量は増加している。

◇目標値に対する割合…… 107.7%

③資源化率については、22%の目標値に対して15.0%と7.0ポイント目標値を下回った。